

2005 謹賀新年

年頭にあたり



松前町長

前田 一男

新年あけましておめでとう
ございます。

一年の始めというのは、爽やかで清々しく、凜として張り詰めた空気を感ずるものです。私としては、今年一年、松前町が安寧で、町民の一人ひとりが健康で心穏やかに過ごすことができるよう祈念するところでありませう。

今後の自治体のあり方を展望しますと、財政削減を目的として国が進める「三位一体改革」により、創意工夫する自治体は残り、黙って何もしない自治体は消え去ることとなりませう。松前町は、絶対に財政再建団体に陥らない

という強い意志をもち、これから数年続く財政危機に対し、

行財政のスリム化など絶えざる改革により生き残りを図るとともに、これから本格化する分権時代に向け、国や道の考え方に左右されない主体性のある自治体となるため、住民と行政がそれぞれに役割と責任を果たす「自律」の精神による町政を行ってまいりたいと思ひます。

私は、新年を迎えるにあたり、単独での町政運営の方針を松前町町民憲章を念頭に、次のとおり掲げたいと思ひます。

- 一、まちの将来は自分たちで考え、自分たちで切り拓こう。～「自律民主主義」
- 二、松前に眠る「宝もの探し」をしよう。～「産業の育成」
- 三、住民パワーで、まちを元気にしよう。～「民間活力によるまちづくり」

松前町の将来展望を拓くには、行政と地域の協力が重要です。町民の皆さんに、いろいろな場面で町政運営に参加いただき、いっしょにまちづくりをしていきたいと考えています。そこで私が注目しているのは、松前町の財産とも言える「23の町内会組織」です。これは「世代を結ぶ松前町の文化」とも言えるのではないでせうか。各地域の住民が結束を強くし、ふるさとを盛り立てていこう、という気運が強くなれば、間違いなく松前町は活気のあるまちになると思ふのです。地域全体で子供を育て、地域全体で高

齢者を支える町。これが松前の原風景ではないでせうか。私にとって「ふるさと・まつまえ」は、人情の厚い温かいまちです。皆さんのお力を借りながら、歴史と文化薫る「松前」の町長としての重責を、誠心誠意、全うしてまいります。「今年の松前はよくなる」とお約束し、年頭にあたりさつといたします。本年もよろしくお願ひいたします。

